

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「情報の扱いに方に関する事項」の内容の平均正答率が低かったが、概ね東京都の平均正答率を上回っていた。算数では「図形」と「データの活用」の領域の平均正答率が低い。
○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、図形や表やグラフをもとに問題解決を一人で行うことが苦手な児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○友達同士で交流して学ぶ前に、一人ひとりが学習課題に対して、自分の考えをもち、それを筋道を立てて説明する力を高める必要がある。
○自分の考えをもつために、既習事項を振り返り、授業の課題や見通しをもてるように授業展開を工夫する必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○「坂下小スタンダード」の取り組みを継続することにより、問題解決を主にした学習、全員活躍型の授業、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行い、全員が参加できる授業を作る。
○「板橋区授業スタンダード」に従い教材研究を丁寧に行い、毎時間のめあてを明確にして全員が分かる授業を行う。
○「基礎的環境整備」の視点に基づき教室環境を整え、すべての子供の学習権を保障する。
○「ミライシード」の「ドリルパーク」や「東京ベーシックドリル」などを活用して家庭学習の習慣化を図ったりし、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
○読み解く力を意識した授業やMIMへの取り組みにより児童の読み取る力や語彙を増やしていく。
○短作文、俳句、などに取り組み思考力や表現力を高める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○全学級で授業の最初に「めあて」を提示し、そのめあてに対して、どのように進めるか見通しを持たせて自力解決を行うようにする。	○算数、理科、社会などの教科で非言語情報を扱う際に、必ず文と対応させる活動を行う。 ○月に一度、俳句の句会を開き、語彙を広げる活動を行う。	○各教科や領域で、問題提示(問題の把握)・課題設定→自分の考え→友達への考え(根拠を示す)→分析・考察→課題解決→新たな課題の設定というスパイラル方式の授業を行う。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
【読み解く力の育成】 ○算数、理科、社会などの教科で非言語情報を扱う際に、必ず文と対応させる活動を行う。 ○俳句、短作文、詩、読書感想文など活動や体験を言語化する活動を多く行う。 ○まとめをノートに書く際に、めあての主語と対応させて書くように指導する。	○児童が問題や本時のめあてを設定し(問題の把握)、それに対する自分の考えをもち、友達への考えと聞き(根拠を示す)友達への考えと比べ(分析・考察)課題解決し、新たな課題の設定という授業のスタイルを各教科でも実践する。 ○各教科で身に付ける、言葉で表す力、グラフや表を読み取る力、社会や理科の知識などを活用して課題設定ができるような授業展開を行う。	○デジタル教科書を使って、児童が視覚的に理解できるようにする。 ○オクリンクを使って、児童一人ひとりの考えを集めたり発表したり共有したりする。 ○「ミライシード」の「ドリルパーク」や「東京ベーシックドリル」などを活用して家庭学習の習慣化を図ったりし、基礎的・基本的な学力の定着を図る。